

こんにちは！ 代々木訪問看護ステーションサテライト経堂すずらんです

利用者様から「すずらんさん」と親しまれ、すずらん通り商店街に面した場所で地域の方々と交流の中日夜頑張っています。

店頭には訪問のための自転車を何台停めているため自転車屋さん間違われたり、通りすがりのおじさんがタイヤの空気入れを借りに来たり、入口のドアの隙間からじっと中を覗いているお散歩中のワンちゃんと仲良くなったり…毎日色々なふれあいがあるのが商店街ならではのところでしょうか。

利用者様との間でも日々色々なことがあります、今回は印象的なお看取りのエピソードをご紹介します

昨年コロナウイルスに感染してご入院された 98 歳の男性の A さん。元々車椅子を自走されお元気にお過ごしでした。入院中に誤嚥性肺炎を併発し衰弱が進みエンドステージをどこで過ごすかという選択を迫られていると、ご家族からご相談がありました。ご家族の想いはただひとつ「父は 11 月 22 日 99 歳のお誕生日を家族みんなでお祝いすることを楽しみにしていたので、家でお誕生日を迎えさせてあげたい」でした。絶飲食、中心静脈栄養点滴管理、吸引が必要な上肝機能も悪化、電解質も崩れており、仙骨部に床ずれもできてしまいました。この状態で退院したら 1 週間ももたないかもしれないと病院で言われ、ご家族は迷われていました。

ご家族が覚悟を決めたならケアマネと連携してサービス体制を作り、できる限りのサポートができるとお応えしました。そして、帰るのなら移送の負担に耐えられる体力のあるうちであることを告げました。何度か退院直前の体調が崩され延期になる中、10 月 18 日退院の日を迎えることができました。

退院当日は看護師 2 人体制で訪問。介護タクシーから担架での移送介助、帰宅後すぐに点滴をつなぎ、吸引器の設置など室内をセットアップ。体調の確認、吸引、床ずれの状態を確認。ご家族も安心されました。以後毎日朝夕訪問、ご家族が不安なく介護を継続できるようにバックアップしました。

ところで皆さんは「在宅マジック」ってご存じですか？

入院中にぐったりされている方がお家に帰った途端に元気になるというエビデンスのない不思議な現象のことです。Aさんも然り。退院時は黄疸でぐったりされており私たち在宅チームもお看とりになると覚悟しました。しかし、2日後にはベットベッドから起きあがろうとされ「食べたい」「起きたい」と発語がみられ、生きる意欲がみなぎってきました。そして11月18日、無事99歳のお誕生日をご家族皆さんと迎えられました。お誕生日以後も驚くべき体力・気力回復がみられ、みかんのしぼり汁を楽しんだり、リクライニング車椅子に座ったりと、退院時には思いもよらなかったことにチャレンジしました。大相撲観戦を楽しみクリスマスを迎えることができました。

Aさんの状態では、入院中には治療の安全上「食べたい」希望は叶えられないことでした。住み慣れたご自宅で、ささやかな楽しみを叶えられながら過ごせるのが在宅の醍醐味です。同じ場面を共有できるからこそ、私たちもいろいろなアイデアを提供できるのだと思います。

次は年越し・お正月を迎える楽しみができました。大晦日は奥さん・家政婦さんと3人で除夜の鐘を聞きながら夜更かして楽しく過ごされ元旦を迎えることができました。元旦の訪問看護時には黒豆の汁を楽しむことをお約束していたのですが訪問時に喀血しました。それでもケア時にはニコリとされていました。しかし、夕方に呼吸状態が急変し、ご家族が見守られ息を引き取られました。黒豆の汁を味わえたらもっとよかったけれど…

後日わかったのですが、1月1日はAさんの母上の命日だったとの事。同じ日を選ばれたのかもしれない。

微力ながらもAさんの最期の日々のお手伝いをさせていただけたこと、その生きざまを通して在宅介護のすばらしさを見せていただけたことに感謝です。

「介護の中に笑顔と楽しさを」

訪問看護に興味のある方、私たちと一緒に働きませんか!今後とも「すずらんさん」を宜しくお願い致します。

代々木訪問看護ステーションサテライト経堂すずらん

看護師 S